

東久留米市立久留米中学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ A基準に達している生徒のうち、読むこと・書くことは4割の生徒が達成できているが、知識・技能に関しては2割ほど達成できていない。漢字の定着に大きく差があり、文章作成においても主語・述語の不一致などが2割程度見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月4回程度の小漢字テストを実施し、正答率の平均8割未満の生徒は再テストを行う。再テストで正答率8割に達する生徒が7割を超えることを目標とする。 ・ 授業プリントで自分の意見を書かせたあと、評価だけでなく誤字脱字等を赤字で訂正し、次回の文章作成に活かせるようにする。学年末には5割ほどの生徒が訂正の必要がない文章を書けることを目標とする。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正負の数の基本的な計算は60%の生徒はできているが、30%の生徒は定着していない。また、10%の生徒は正負の数の加法の定着に課題が見られる。 ・ 小学校の内容の文章を読み取る問題や、割合、面積、グラフ、分数小数の計算など、算数の理解の定着に課題の見られる生徒が半数程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で、小学校の復習も取り入れながら、演習時間を確保する。机間指導を1授業4回はする。 ・ 各単元の小テストを実施し、80%達成できなかった生徒は放課後の補習を行う。 	
(外国語) 英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞くこと・話すことでは正答率は80%を超えているが、書くことの正答率が50%と低い。スペリングの練習が足りず、文字と音が一致していないことが原因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で書く活動を多く取り入れ理解度を上げ、正答率を70%にする。 ・ 家庭学習を促すために、小テストなどを行っていく。 ・ ICTを活用し問題演習をする機会を増やす。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題の正答率が90%以上でありながら、考査の正答率が70%未満である生徒が多く見られることから、自分の学習のやり方や質の変容によって学習調整力の向上を図ることを求めていくことが必要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題の提出率80%以上、考査の正答率70%以上を目標に、知識・技能の定着と思考・判断・表現のための家庭学習量と質の向上に繋げさせる。手だてとして、学習課題の内容の精選、生徒・教師双方での確認方法の改善を行う。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習した学習内容を世の中と結びつけることに課題のある生徒が約50%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題80%の提出、正答率70%で知識の定着と家庭学習に繋げる。 	

